K141.71
3.2

K141.71
3.2

高等小學毛筆畫帖

教師用

文部省

K141.71
3.2

高等小學毛筆畫帖

教師用

文部省

大正
1.10.2
內交

凡例

一。本書は尋常小學毛筆畫帖に連絡して毛筆畫を課する高等小學校の圖畫科の教科書に充つるため編纂したるものにして分ちて兒童用書と教師用書との二種とす。

二。教師用書は兒童用書中にある教材の取扱方を記述し第一及び第二學年用併せて一冊となしたり。

三。本書中の教材は次表に示したる如き圖畫の種類と割合とによりて選擇したり。

學校別	學年別	臨畫	寫生畫	記憶畫	考案畫	合計
尋常小學校	第三學年	四〇	三五	二五		一〇〇
	第四學年	三五	四〇	二五		一〇〇
	第五學年	二五	五〇	二五		一〇〇
	第六學年	二〇	五〇	三〇		一〇〇
高等小學校	第一學年	一〇	六〇	三〇		一〇〇
	第二學年	一〇	六〇	三〇		一〇〇

四、兒童用書中に掲げたる教材の外、前表に示したる割合を標準として寫生・記憶畫・考案畫等を課すべし。尙兒童用書中の教材の一部を便宜參考圖として取扱ふも可なり。

五、本書は自在畫の外、時時尺度・三角定規・コンパス等を使用して正確なる形態の畫方に慣れしめんことを期したり。

六、教師用書は教授の便を計り、兒童用書に掲げたる各圖につきて、要旨・教授の二項目を掲げて説明をなしたり。教授の項は更に又觀察・畫方・注意等の小項目に分ちて、教授上必要なる注意事項を記したれば、教授者は適宜に之を分解して活用すべし。

目錄

第一學年

第一圖　器物……一
第二圖　位置の取方……三
第三圖　本と桒……五
第四圖　模樣……六
第五圖　蝶……九
第六圖　蝶と蜻蛉……一〇
第七圖　桔梗……一二
第八圖　模樣……一三
第九圖　蕪菁……一四
第十圖　犬……一五
第十一圖　模樣……一七
第十二圖　景色……一九
第十三圖　菅公……二〇
第十四圖　雛人形……二一

第二學年

第一圖　蒲公英……二四
第二圖　牡丹……二五
第三圖　藤の花……二七
第四圖　位置の取方……二八
第五圖　水門……二九
第六圖　野菜類……三〇
第七圖　蝦……三二
第八圖　鴨……三三
第九圖　牛……三五
第十圖　老人……三六
第十一圖　男兒……三八
第十二圖　運動……三九
第十三圖　器物と模樣……四一
第十四圖　模樣……四三

高等小學毛筆畫帖　教師用

第一學年

第一圖　器物

要旨　煙草盆・土瓶・茶碗を畫かしめて、立方體・圓柱・圓錐・球に屬する形の畫方を練習す。

教授

一、觀察　煙草盆の箱は立方體に屬する形にして、火入と灰吹とは圓柱、土瓶は球、茶碗は圓錐に屬する形なることを知らしめ、且彩色に於て、器物の外面は左方を淡色、右方を暗色に

し、內面は左方を暗色、右方を淡色にしたるは、畫者の左後方より來射したる光線によりて、器物の表面に明暗を生じたる結果をあらはしたるものなること、及び線描に於て、太き線と細き線とを區別したるは、光線のために生ずる暗き部分と明かなる部分とを區別したるものなることを知らしむべし。

二、畫方　煙草盆は箱・火入・灰吹の順序に線描し、其の彩色は箱の內外を淡岱赭色、火入を淡綠色、灰吹を黃色にて一樣に平に塗り、其の乾燥したる後、更に箱・火入・灰吹の暗き面に暗岱赭色を施さしむべし。

土瓶と茶碗とは、土瓶の胴・蓋・注口・手、茶碗の順序に線描し、淡青色にて土瓶の胴と茶碗とを彩色し、黃色にて土瓶の手を一樣に平に塗り、土瓶の胴と茶碗とに塗りたる淡青色の乾きたる後、暗き面に青色の隈取をなさしむべし。

三、注意　用線に太き部分と細き部分とあり、面の彩色に濃き處と淡き處とあるは、器物の面の高低に關係あるものなれば十分注意せしむべし。

第二圖　位置の取方

要旨

木の折枝を畫かしめて、與へられたる面內の適當なる位置に畫を配置する方法を知らしむ。

教授

一、觀察と說明　手本に示したるものは、野薔薇の折枝を畫き

たるものなり。

右上方に示したる正方形は、一本・二本・三本の直線を用ひて正方形内を縱・横或は斜に區劃して、其の面積を變化あり且統一ある樣に分ちたる例を示したるものなり。

左方に示せる長方形・正方形・圓の内に畫きたる折枝は、右方に畫きたる大なる一本の枝の適當なる部分を選び、右に述べたる面積の區劃法に準じて、長方形・正方形・圓の内に、變化あり統一ある樣に配置したるものなり。

二。畫方　左方に示したるものの内、一圖若しくは二圖を選びて任意に畫かしむべし。

三。注意　手本に示したるものの外、楕圓形・扇形・團扇形等種種の輪廓を作りて、恰好よく當嵌むる練習をなさしむべし。

第三圖　本と栞

要旨

本と栞とを畫かしめて、長方形に屬する形の變化したるものの畫方練習をなす。

教授

一。觀察　手本に示せる本は長方形に屬する形の變化したるものなることを知らしめ、次に紙の曲りたる有樣、曲面と濃淡との關係、栞の乘りたる有樣につきて觀察せしむべし。

二。畫方　本の四隅の點を取りて四角形を畫きて、左右兩區に分ち、左方の紙の曲面、紙の重り目、本の綴ぢ目及び栞と其の房とを畫き、濃墨にて線描し、淡墨にて本と本の周圍とに隈

を取り、次に葉・房・本に彩色せしむべし。

三。注意　葉を浮きたるが如く畫き、又は本の綴目を曲れるが如く畫く弊あるものなれば、特に此の點につき注意せしむべし。

第四圖　模樣

要旨

文字を模樣に便化することを知らしむ。

教授

一。觀察と説明　**文**の字は弧線形に便化して、之を帶模樣に排列し、**忠**の字は直線形に便化して、之を正三角形内に當嵌め、**山田**の二字は弧線と直線形とに便化し、陽線(細き線)と陰線

(太き線)とにてあらはして、之を圓形内に當嵌め、**壽**の字は草書體にて便化して、楕圓形内に當嵌め、**幸福**の二字は方眼の罫紙を基礎として各字とも縱横の長さを等くし、且線の端を圓くしたる書體を示し、數字は各字を縱二幅一の割合の長方形内に太き線と細き線とにて畫きたることを觀察せしむべし。

二。畫方　**文**の字の帶模樣はコンパスにて弧線を畫きて交互に組合せて、割出し、**忠**の字は正三角形の底邊に平行せる若干の直線にて正三角形の高さを等分し、次に正三角形の底邊を若干に等分し、各分點を頂點と結合し、適宜の縱横の線を畫きて後、**忠**の字を畫かしむべし。

山田の字は圓を畫き、次に縱の直徑を引きて之を適宜に等

分して横の平行線を畫き、次に直徑の等分線を標準として山及び田の字を割出さしむべし。

壽の字は楕圓形を畫きて縱の直徑を畫き、之を標準に目測にて全形を畫かしむべし。

幸福の字は各一字を入るべき正方形を縱横共に若干等分して方眼罫を作り、之を基礎として全形を畫かしむべし。

數字は幅一高さ二の割合にて各數字を入るべき長方形を作り、其の内に臨寫せしむべし。

總べて線描したる後之を塗らしむべし。

三。注意　手本に示したるものを全部畫かしむること困難なれば、此の内任意に一を選擇して畫かしむべし。

便宜兒童各自の姓及び名を便化して畫かしむるも可なり。

第五圖　鰈

要旨

鰈と笹とを畫かしめて、魚類の畫方と二物の組合方との練習をなす。

教授

一。觀察　鰈と笹とを組合せ、鰈は腹部をあらはし、口・鰓・鰭及び眼の一部を畫きたることを知らしめ、更に體の長さと幅との割合、體と頭との長さの割合、鰈と笹との組合方、並びに各部の形狀・色彩を觀察せしむべし。

二。畫方　鰈と笹との組合方を定め、鰈は菱形を基礎として大體を畫き、次に鰭・口・鰓・眼を畫き、更に各部の形を訂正して笹

を畫き、線描して後、鰈には淡岱赭色、笹には綠色を施し、周圍を淡綠色にて隈取せしむべし。

三。注意　地色を淡綠色にて隈取したるは、鰈の彩色を鮮明にし、見榮よからしめんがためなり。

魚類の輪廓には多くは菱形を用ふるを便とすることを知らしむべし。

第六圖　蝶と蜻蛉

要旨

蝶と蜻蛉とを畫かしめて、虫類の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　蝶は二匹とも平面圖として畫き、蜻蛉は透視圖として畫きたるものなることを知らしめ、次に彩色につきて觀察せしむべし。

二。畫方　蝶及び蜻蛉の各、の位置を定め、蝶は何れも左右兩翅の先端に相當する點の位置を印し、點と點との間を結合して梯形を作り、之を基礎として體と左右兩翅との區劃をなし、觸角・目・體・兩翅を畫き、濃墨にて翅の紋形を畫き、而して後、黃蝶に黃色、あげはの蝶に淡黃色を塗り、更に青色に白を混じたる色及び朱にてあげはの蝶の後翅の一部分を彩色せしむべし。

蜻蛉は體の方向と長さとを定め、左右兩翅を畫きて全形を整へ、線描して後、淡墨にて體と翅とを塗り、更に淡青色と岱赭色とにて頭及び體を彩色せしむべし。

三。注意　教授時間の都合にては、蝶及び蜻蛉の内何れか一を畫かしむるも可なり。

第七圖　桔梗

要旨

桔梗を畫かしめて、花の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　手本に示せる畫は桔梗の花と葉との輪廓を畫き、花瓣の組合方、及び葉脈の細部分等は之を省略したるものなることを知らしめ、次に花・蕾の形狀・色彩並びに莖の方向、長さの割合等につきて觀察せしむべし。

左下方に畫きたるものは、蕾と花とを便化して模樣となしたるものなり。

二。畫方　主なる莖の方向と長さとを定め、花及び蕾は適宜の五角形を畫きて輪廓とし、之を莖につけ、次に葉の位置を定めて、花・蕾・葉の順序に形を訂正し、次に淡紫色にて花と蕾とを彩色し、綠色にて莖と葉とを彩色せしむべし。

三。注意　下畫したる線は彩色の乾燥したる後奇麗に消取らしむべし。

第八圖　模樣

要旨

諸種の形狀を便化する方法を知らしむ。

教授

一。說明と觀察　手本を觀察せしめて、諸種の形狀を直線又は曲線にて便化すれば、多數の變形したる模樣となすを得ることを知らしむべし。

二。畫方　兒童各自に數種を選擇せしめて、任意に之を畫かしむべし。

三。注意　手本中のものを單位として、帶模樣又は續模樣等を考案せしむるも可なり。

第九圖　蕪菁

要旨

蕪菁を畫かしめて、野菜類の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　手本につき、根部の組合方、莖の排列、葉の表裏の彩色等につきて觀察せしむべし。

二。畫方　根は二箇とも楕圓形に作りて之に莖・葉及び支根を畫き添へ、線描したる後、帶黃綠色の淡きものにて莖と葉とを平に塗り、根の頭部に隈取し、次に表葉を濃綠色にて塗り、莖を隈取し、最後に淡赤色にて枯葉・莖・根の帶赤色の部分を彩色せしむべし。

三。注意　莖の排列の有樣につきて特に注意せしむべし。

第十圖　犬

要旨

犬を畫かしめて、獸類の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　上方に線描にてあらはしたる犬は伏したる犬の右向・前向・左向の姿勢を示し、下方に黑く平塗してあらはしたる犬は立ちたる場合の右向と左向との姿勢を示したるものなることを知らしめ、次に頭・頸・胸部・腰部並びに前後の脚の形狀につき觀察せしむべし。

二。畫方　任意に何れかの一を選擇せしめて、體・頸・頭・脚・尾の順に輪廓を定め、線描或は平塗にて畫かしむべし。

三。注意　大なる犬の後方の家は犬小屋を畫きたるものなり。犬の頭の方向と脚の構とは犬の表情に關係あるものなれば注意せしむべし。

第十一圖　模樣

要旨

模樣を畫かしめて、模樣の組立法を知らしめ、且彩色の練習をなす。

教授

一。觀察と說明　左方に畫きたる水仙の花は一の苞の中より數箇の花の生ぜることを觀察せしめ、右上方に示したるものは花の側面及び平面を曲線形と直線形とに便化したるものなることを知らしむべし。

中段の四角形內の模樣は水仙の花を中心として葉を其の左右に對照的に出したる隅模樣なり。地色は暗岱赭色にし

て、模樣は白色・黃色・濃綠色・淡綠色の配合を示したり。此の配合は一體に寒色の配合にして眞面目の配合あらはれたることを知らしむべし。

下方の長方形內に畫きたる帶模樣は波形を基礎として水仙を排列したるものなり、此の彩色は淡紫色の地色に白色・赤色・淡赤色・黃色の配合にして暖き快活なる配合あらはれたることを知らしむべし。

二。畫方　手本中の何れか一の模樣を選擇せしめて任意に畫かしむべし。

三。注意　配色は濃淡ある同一色と白との配合ならば、手本中の配合と異なるものなるも可なり。

便宜三角定規・コンパス等を使用せしむるも可なり。

第十二圖　景色

要旨

景色の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　橋の構造並びに手前の地面、川向の岸、橋・家の占むる紙面上の位置及び各部の面積の割合を觀察せしむべし。

二。畫方　川向の岸の上端を地平線の位置として先づ用紙に地平線を定め、次に橋の手前の地面、橋・家・遠景・鳥の順序に輪廓を定め、線描して後、淡岱赭色にて家・橋、川向の岸、橋の手前の地面等を一樣に平に塗り、淡墨にて橋の暗き部分と屋根とに隈取をなし、帶黃綠色にて川向及び手前の地面を彩色

し、更に濃緑色にて各部に隈を取り、草を畫き、最後に遠景と空とを彩色せしむべし。

三。注意　橋の形を正確に畫くことに注意せしむべし。

第十三圖　菅公

要旨

菅公を畫かしめて、人物の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　顏の各部の位置形狀を觀察せしめ、顏の各部は凡そ左の割合の處にあることを知らしむべし。

目は顏の全長の略二分の一の處にあり、鼻は目と下顎との間の略、二分の一の長さに等しく、口は鼻と下顎との間の略、三分の一の處にあり、耳の下端は凡そ鼻の先端と同じ高さにあり。

二。畫方　烏帽子の上端と裝束の左右兩端とを取りて三角形を畫き、胴と頭とを區劃して後更に卵形の顏を畫き、顏と烏帽子とを分ち、目・鼻・口・顏面・眉・鬚髯・耳・烏帽子・髮・裝束の順序に輪廓を取りて線描し、淡墨にて烏帽子・鬚髯・髮・裝束を平に塗り、淡岱赭色にて顏の全面を彩色し、淡青色にて衣襟を彩色し、更に烏帽子其の他の部分を中墨にて隈取し、最後に眼を入れ唇を彩色せしむべし。

三。注意　顏の各部の割合につきて注意せしむべし。

第十四圖　雛人形

要旨

雛人形を畫かしめて、人形の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　男雛の袖の丈と幅との割合、袴の丈と幅との割合等を觀察せしめ、更に女雛の總丈と幅との割合を觀察せしむべし。

二。畫方　二つの人形の位置を定め、男人形は二つの長方形を丁字形に組合せて輪廓を作り、顔と烏帽子とを畫き、女人形は長方形の長き輪廓を畫きて顔と帶との區劃をなし、而して後、兩方とも細部を畫き、模樣を施し、線描して彩色せしむべし。

彩色は男女の人形とも其の肩の部分を淡墨にて平に塗り、其の下方を男人形は淡綠色、女人形は帶青紫色にて隈取し、次に顔及び袴を淡岱赭色にて平に塗り、黃色と朱色との部分を彩色し、松と藤との模樣を畫き、最後に顔の細部を仕上げしむべし。

三。注意　蝶・松葉、藤の花、菊等を畫くには繪具に白を混じて使用せしむるを可とす。

第二學年

第一圖　蒲公英

要旨

蒲公英を畫かしめて、花の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　花は黃色舌狀の小花數多群生し總苞にて包まれ、葉は其の先端廣くして缺刻逆向し、花軸と葉柄とは莖の一箇所より生じたることを觀察せしめ、次に右上方のものは蕾、滿開の花、果實及び葉を便化して單獨模樣となしたるものなることを知らしむべし。

二。畫方　花軸及び葉柄の方向と長さとを定めて、花・蕾・葉の順序に輪廓を定め、花を淡墨、其の他を濃墨にて線描し、黃色にて花を彩色し、綠色にて蕾と葉とを平に塗り、更に淡赤色にて花軸と葉柄とを彩色し、且葉の先端の赤みを有する部分に淡赤色の隈取をなさしむべし。

三。注意　葉の缺刻の逆向せることに注意せしむべし。教授時間の都合にて手本に示したる便化の例に倣ひて、花・蕾・葉を任意に便化せしむべし。

第二圖　牡丹

要旨

牡丹を畫かしめて、花の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　花瓣の表裏、花瓣の裏返りたる有樣、花瓣の隈取法、並びに葉の形狀・色彩につきて觀察せしむべし。

二。畫方　花瓣の上端・左端・下端・右端の四點を標準として四角形を畫き、雄蕋の位置を定め、莖及び葉柄の方向と長さとを定め、花瓣の各部と葉の輪廓とを畫き、花瓣を淡墨、其の他を濃墨にて線描せしめ、次に彩色せしむべし。

彩色は淡赤色にて瓣の本の方より先端に隈取をなし、綠色にて葉・葉柄・莖を平に塗り、更に隈取して後、莖と葉柄とを淡赤色にて彩色して圓みを表さしむべし。

三。注意　瓣は表を濃く裏を淡く彩色すること、並びに雄蕋と莖とを連絡ある樣に畫くことに注意せしむべし。

第三圖　藤の花

要旨

藤の花を畫かしめて、花の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　蔓と花梗との位置、並びに花の方向と形狀との關係、葉の方向と形狀との關係、彩色等につきて觀察せしむべし。

二。畫方　蔓と花梗との位置を定めて葉柄並びに各葉片の中肋を畫き、葉・花の順序に輪廓を取り、花は淡墨、其の他は濃墨にて線描し、葉の全面と花梗とを淡綠色にて平に塗り、淡紫色にて花を隈取し、墨と岱赭とを混じたる色にて蔓を彩色し、更に濃綠色にて表葉に隈を取り、若葉を淡赤色、花の中央

を黄色にて塗らしむべし。

三。注意　葉の方向と形の變化との關係につき注意して畫かしむべし。

第四圖　位置の取方

要旨

海面に浮べる船を畫かしめて、位置の取方を練習す。

教授

一。觀察と説明　左上方の大なる長方形内に畫きたる船を觀察せしめて其の配置の散漫なることを知らしめ、次にこれを適當なる部分に切取る時は、美なる結果を表すことを知らしむべし。

天然の景色を畫く時も、此の方法に準じて美なる處を選擇するものなることを知らしむべし。

二。畫方　小區劃内に畫きたる景色の内、何れか一を選擇せしめて輪廓を畫き、淡墨にて遠景と水面とを畫き、濃墨にて大なる船より畫き始め、次に小なる船を畫かしむべし。

三。注意　便宜手本に示したる部分以外を切取りて畫かしむるも可なり。

第五圖　水門

要旨

水門を畫かしめて、景色の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　水門の位置・大いさ、並びに土坡の占むる面積につきて觀察せしむべし。

二。畫方　水門の横木の上端を地平線の位置と定めて用紙に横線を引き、水門と土坡とを畫き、中墨にて全部を線描し、淡岱赭色にて水門を平に塗り、樹木と土坡とを綠色、前方の土坡と水門の暗面とを淡墨、水面を淡青色にて隈取し、更に濃綠色にて草を畫き、岱赭色にて枯木を畫かしむべし。

三。注意　水門の形は正確に畫かしむべし。

第六圖　野菜類

要旨

野菜類の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　手本は蓮根・胡瓜・茄子・豆・芋を適當に組合せて畫きたることを知らしめ、各の彩色を觀察せしむべし。

二。畫方　蓮根の位置を定め、胡瓜と茄子とを組合せて大體の輪廓を取り、次に芋と豆とを畫き、茄子・胡瓜・豆は濃墨、蓮根と芋とは中墨にて線描し、更に彩色せしむべし。

彩色は茄子は暗紫色、胡瓜と豆とは綠色、蓮根と芋とは淡黄色にて平に塗り、後各の色にて隈取をなし、最後に淡墨にて野菜の周圍に隈を施さしむべし。

三。注意　線の太き部分と細き部分とにつきて注意せしむべし。

第七圖　蝦

要旨

伊勢蝦を畫かしめて、節足動物の畫方練習をなす。

教授

一、觀察　伊勢蝦は全部暗赤色にして、體は頭胸部と腹部とのの二部に分れ、頭胸部の背面は一枚の殼にて覆はれ、其の表面に數多の刺あり、腹部は數箇の關節より成りて後端に尾あり、頭の前端には一對の眼と長短二對の觸角とあり、頭胸部には五對の胸脚あり、腹部には平扁なる數對の腹脚あることを知らしめ、更に各部の形狀・色彩・割合・方向等を觀察せしむべし。

二、畫方　長き觸角の折れたる所と體の曲れる所とを標準として長き四角形を作り、頭胸部と腹部とを分ち、觸角と脚との方向を定め、頭胸部・腹部・脚・觸角の順序に輪廓を取り、濃墨にて線描し、全體を淡赤色にて平に塗り、圓みを表すために體の側面と脚とに隈を施し、眼と腹脚とに淡紫色を塗り頭胸部の背面に斑點を入れしむべし。

三、注意　頭胸部と腹部との割合、腹部の節並びに胸脚の畫方に注意せしむべし。

第八圖　鴨

要旨

鴨を畫かしめて、鳥の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　水面に靜に浮びたる鴨を畫きたることを知らしめ胴の高さと長さとの割合、腹部と翼との面積の割合、並びに各部の形狀・色彩を觀察せしむべし。

二。畫方　頭の上端、胸部の前端、胸と水と接したる部分、腹部と水と接したる部分、及び尾端を標準として適宜の五角形を作り、背部と頭部との輪廓を定め、腹と翼とを分ち、各部分の恰好を訂正し、次に嘴・目・羽毛・脚・蘆の順序に中墨にて線描し、淡墨にて嘴・頭・胸・翼・尾等の各部を隈取し、更に嘴は淡岱赭色、頭と胸との一部は暗綠色、胸の大部分は紫色、背部は淡綠色、翼の先端は中墨、脚は橙色と赤色、水は淡青色、蘆は岱赭色と黃色と混じたる色にて彩色し、最後に眼に橙色を入れしむべし。

三。注意　嘴の方向と目の位置との關係、並びに脚の位置に注意して畫かしむべし。

第九圖　牛

要旨

牛を畫かしめて、獸類の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　少しく斜に向きたる牛を畫きたることを知らしめ、次に、胴の長さと高さとの割合、背の高さと脚の長さとの割合、頭部・頸部の恰好、彩色の濃淡と面の高低との關係等につきて觀察せしむべし。

二。畫方　角・鼻・臀・前脚・後脚の端を標準として適宜の五角形を作り、胴と脚とを分ち、次に胴と頸との部を區劃し、更に頭部・胴・脚の順序に輪廓を取り、線描せしめて後、全部を淡岱赭色、爪を淡青色にて塗り、淡墨にて隈を取り、而して後帶黄綠色にて地面を塗り、草を畫かしむべし。

三。注意　各部の割合を失はざるやう注意して畫かしむべし。

第十圖　老人

要旨

男の老人を畫かしめて、人物の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　老人の半右向をなしたる姿勢を畫きたることを知らしめ、顏面の皺と老人の面相との關係を觀察せしむべし。

二。畫方　頭部及び顏面の輪廓を長方形として畫き、頸と兩肩とを通じ二直線を畫きて三角形を作り、更に長方形の下端に鬚の輪廓を三角形に取り、次に顏の部は前學年の菅公の圖につきて說明したる割合に準じて畫き、衣服の各部の輪廓を訂正し、濃墨にて線描し彩色せしむべし。

彩色は顏と頭とを淡岱赭色、羽織を中墨、衣服を淡橙色にて平に塗り、顏面を暗岱赭色、羽織を中墨にて隈取し、最後に眼に淡青色を入れしむべし。

三。注意　老人の面相をあらはすために用ひたる顏面の曲線につき、注意して畫かしむべし。

第十一圖　男兒

要旨

男兒を畫かしめて、全身の人物の畫方練習をなす。

教授

一。觀察　側面向の男學生の姿勢を畫きたることを知らしめ、次に全長は頭の略六倍半に相當し、手の長さは肩より足までの略二分の一に當ることを知らしめ、更に袴の長さと頸より袴に至る長さとの割合等を觀察せしむべし。

二。畫方　先づ中心線を引き、頭と全長との割合を定め、頭は帽子の上部の前後兩端及び鼻先・顎・頸部を標準として五角形を作り、體は後襟・胸・袴の裾の前後兩端にて四角形を作り、足の大體の形を畫き、次に頭、衣服の上部、手・鞄・袴・足の順序に各部分の輪廓を取り、濃墨にて線描し、淡岱赭色にて顏・手・足・鞄を塗り、中墨にて頭・帽子・衣服を塗り、淡青色にて袴を平に塗り、更に岱赭色と中墨とにて隈を取り、青色にて袴の縞と草履の緒の緣とを畫き、最後に黃色にて帽子と草履とを彩色せしむべし。

三。注意　全身の割合を失はざるやう注意せしむべし。

第十二圖　運動

要旨

運動の際に於ける各種の姿勢を畫く練習をなす。

教授

一。觀察　廣き野原を疾走せる人物の各種の姿勢を畫きたることを知らしめ、足の恰好と體及び手の形狀との關係、並びに足の位置と重心との關係につきて觀察せしむべし。左上方に示したるものはベースボールに於ける各種の姿勢を示したるものなり。

二。畫方　空と野原との界線を畫き、人物と影と樹木との輪廓を畫き、淡墨にて樹木と野原とを塗り、淡黃色にて空色を平に塗り、人物を濃墨、影を淡墨にて平に塗り、仕上をなさしむべし。

三。注意　體の重心を支へたるやう足の恰好を畫くことに注意せしむべし。

便宜左上方に示したるものを畫かしむるも可なり。

第十三圖　器物と模樣

要旨

器物の構造並びに其の表面に模樣を畫く方法を知らしむ。

教授

一。觀察と說明　左方のものは被蓋の漆器にして、上部に示したる正面圖は一部分を切開して被蓋の構造を示し、展開圖は上面の模樣と側面の模樣との關係を明かにしたるものなり。模樣は蒲公英の花の蒔繪模樣なり。箱の表面模樣を圖案する時は、かくの如く展開したる面に畫きて各面の模樣の關係をあらはすことを知らしむべし。

中央の六角形の器物は陶器の筆立にして、正面圖は筆立の

高さと蒲公英の花を用ひたる緣模樣とを表し、平面圖は口と臺との形を示したり。模樣を器物の側面に圖案するには全側面を展開して其の關係を示すを常とすれども、此の場合の如く各面とも同一の形を繰返したる場合は、右上方に示したるが如く側面の一部の模樣をあらはし其の他は省略することあるを知らしむべし。

右方に示したるものは陶器の皿にして、正面圖は皿の內外の形を表し、平面圖は皿の內面の模樣を示したるなり。模樣は蒲公英を圓形內に當嵌めたるものなり。

二。畫方　手本中任意に一を選ばしめて畫かしむべし。

三。注意　何れを畫くにも、模樣は先づ地色を平に塗りて其の上に彩色せんとする繪具に白を混じて使用せしむべし。

器物の構造を明瞭にするために、圖の一部分を切開して斷面を示すことにつきて注意せしむべし。

便宜コンパス・定規類を使用せしむるも可なり。

第十四圖　模樣

要旨

模樣を畫かしめて、我邦の古代模樣の趣味を與ふ。

教授

一。觀察　上段の左方のものは向ひ鳳凰、次は下り藤、其の次は丁字、右方のものは雲鶴模樣にして、下段左方は市松の地に霰、中央のものは青海波の地に千鳥、右方は七寶繋と稱する地模樣なることを知らしむべし。

K141.71-3.2-4

二。畫方　手本中の一を任意に選擇せしめて畫かしむべし。

三。注意　彩色は何れも地色を平に塗りて其の上に模樣を畫かしむべし。霰・千鳥・七寶形の如きものを畫くときは繪具に必ず白を混じて彩色せしむべし。

配色は兒童各自に考案したるものにて彩色せしむるも可なり。

高等小學毛筆畫帖教師用終

高等小學毛筆畫帖　教師用

定價金五錢五厘

大正元年八月廿五日印刷
大正元年八月廿八日發行
大正元年九月十六日翻刻印刷
大正元年九月廿八日翻刻發行

著作權所有

著作兼發行者　文部省

翻刻發行者　東京市日本橋區新右衞門町拾七番地3　日本書籍株式會社　代表者　大橋新太郎

印刷者　東京市日本橋區通一丁目拾九番地　大倉保五郎

印刷所　東京市京橋區新榮町五丁目七番地　大倉印刷所

大正元年九月十七日　文部省檢査濟

發賣所　東京市日本橋區新右衞門町拾六番地　株式會社　國定教科書共同販賣所

593